旭川市　あさひかわし

役場所在地　北海道旭川市６条通９丁目４６番地
郵便番号　０７０－８５２５
電話番号　（０１６６）２６－１１１１
ＦＡＸ番号　（０１６６）２４－７８３３
市町村コード番号　０１２０４１
市町村別類型　中核市
交通機関　旭川駅から徒歩１７分
ホームページ　https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/

〔歴史〕

14 世紀前後にアイヌ文化が形成され、上川もその文化の担い手であるアイヌの人たちの世界であった。

18 世紀に入ると徳川幕府は多くの探検隊を蝦夷地に送っている。明治２年に開拓使が設けられ、蝦夷地が北海道と改称され、上川盆地一帯は石狩国上川郡となった。明治 18 年に岩村通俊らが近文山から上川原野を視察、明治 22 年には第二代北海道庁長官永山武四郎により上川離宮設置計画が建言、明治 23 年９月 20 日に上川郡に初めて旭川村、永山村、神居村の３村が置かれ、明治 24 年から屯田兵が入植。明治 31 年には鉄道が開通、明治 33 年には旭川村から旭川町に改称、第７師団の移転が開始されるなど道北の要としての使命を担ってきた。大正 11 年８月市制施行、昭和 30 年から近隣町村との合併が進み、昭和 45 年に人口 30 万人、昭和 58 年に人口 36 万人を超え、札幌に次ぐ北海道第２の都市となった。また、主要国道４本、JR４線の始終点となっているほか、平成２年 10 月道央自動車道が旭川まで開通、さらに平成９年２月旭川空港 2,500m 滑走路が供用開始されるなど、北・北海道の中核都市のみならず、道北・道東地域の商業流通の拠点都市として着実に発展を遂げている。平成 12 年４月１日、道内初の中核市に移行し、「世界にきらめく いきいき旭川～笑顔と自然あふれる 北の拠点～」を目指す都市像として掲げ、市民が高い志と誇りを持ちながら、いつまでも住み続けたいと思えるまちづくりを進めている。

〔市政のあゆみ〕

明治 23 年　旭川、永山、神居の３村が置かれる。
大正 11 年　市制施行
昭和 33 年　市総合庁舎(現)完成
〃　35 年　第１回旭川冬まつり開催、市民憲章制定
〃　37 年　米国ブルーミントン市と姉妹都市提携
〃　41 年　旭川空港開港、東京便就航
〃　42 年　旭山動物園開園、ソ連邦（現ロシア）ユジノサハリンスク市と友好都市提携
〃　43 年　詩の第１回小熊秀雄賞授賞式挙行
〃　45 年　彫刻の第１回中原悌二郎賞授賞式挙行
〃　47 年　全国初の恒久的歩行者天国「平和通買物公園」オープン
〃　50 年　身障者福祉モデル都市指定、旭川市民文化会館完成
〃　51 年　市民の木「ナナカマド」・花「ツツジ」制定
〃　53 年　市民の鳥「キレンジャク」・虫「カンタン」制定
〃　56 年　第１回旭川国際バーサースキー大会開催
〃　58 年　人口 36 万人突破、平和都市宣言
〃　59 年　スタルヒン球場オープン
〃　60 年　小林光一　囲碁三冠達成に初の市民栄誉賞贈呈
〃　62 年　米国ノーマル市と姉妹都市提携
平成元年　旧旭川偕行社が国の重要文化財に指定、韓国水原市と姉妹都市提携
〃　２年　旭川市開基 100 年記念式典挙行、同記念イベント「日本のまつり・旭川」開催、健康都市宣言
〃　５年　井上靖記念館、大雪クリスタルホール開館
〃　６年　中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館開館、旭川冬まつりメイン雪像「水原城」が世界一の大雪像としてギネス社に認定
平成７年　中国哈爾濱（ハルビン）市と友好都市提携
〃　９年　旭川空港 2,500m 新滑走路供用開始
〃　10 年　国内最大規模「西部融雪槽」利用開始、北彩都あさひかわ整備事業本格着工、三浦綾子記念文学館オープン
〃　11 年　FIS ワールドカップスノーボード大会開催
〃　12 年　中核市へ移行、「日本のまつりふるさと・旭川 2000」開催
〃　14 年　旭川市障害者福祉センター「おぴった」がオープン
〃　16 年　旭山動物園月間（７月及び８月）入園者数が日本一
〃　17 年　旭川市科学館「サイパル」オープン
〃　19 年　旭山動物園開園 40 周年（平成 18 年度入園者数が初の 300 万人突破）
〃　20 年　総合防災センター運用開始
〃　22 年　ふるさと・旭川 120 年北の恵み食べマルシェ開催
〃　23 年　氷点橋開通、JR 旭川駅新駅舎全面開業
〃　24 年　平和通買物公園 40 周年、動物愛護センター「あにまある」オープン
〃　25 年　クリスタル橋開通、スタルヒン球場ナイター照明設備完成
〃　26 年　北彩都あさひかわ完成
〃　27 年　鹿児島県南さつま市と姉妹都市提携
〃　28 年　旭川空港開港 50 周年
〃　29 年　旭山動物園開園 50 周年
〃　30 年　旭川空港国際線ターミナルオープン
令和元年　ユネスコ創造都市（デザイン分野）として認定
令和２年　北海道エアポート（株）による旭川空港運営事業開始
〃　４年　平和通買物公園 50 周年

〔文化・観光〕

旭川市旭山動物園　動物達の生育環境や生態を生かした展示の工夫（行動展示）が入園者数の増加につながり、国内外の専門家の注目を浴びている。

旭川市科学館「サイパル」　平成 17 年に開館し、体験を通じて科学に対する理解を深める常設展示室、170 人収容のプラネタリウム、大小２基の天文台など、楽しみながら科学を総合的に学ぶことができる。

神居古潭　大雪山連峰を水源とする石狩川が市の西側の山間に囲まれた狭あいの地で蛇行急流をなし、奇岩や山々の

四季の彩りとともに水面も変わる景勝地。旭川市サイクリングロード（現在通行止め、開通時期未定）の終点でもあり、先住民の遺跡、アイヌの伝説の多いところ。神居古潭渓谷の変成岩は「日本の地質 100 選」に選定された。

旭川市彫刻美術館　重要文化財である旧偕行社を活用し、中原悌二郎を始めとする著名作家の作品を収蔵している彫刻専門美術館。JR 旭川駅ステーションギャラリー、文化会館、買物公園、７条緑道にも内外の作家の彫刻が展示されている。

外国樹種見本林　明治 31 年に植栽が始まった北海道で最も古い外国樹種人工植栽地の一つ。旭川在住の作家、故三浦綾子のデビュー作「氷点」で有名になったところで、一角には三浦綾子記念文学館が建てられている。

旭川冬まつり　２月上旬、旭橋河畔会場には世界最大級の大雪像やロング滑り台、雪のアトラクション、平和通買物公園会場では氷彫刻世界大会が行われ、街が雪と氷で幻想的に彩られる。

バーサーロペット・ジャパン　３月上旬、北国の冬に別れを告げるフィナーレとして、毎年 FIS 及び SAJ 公認のクロスカントリーと歩くスキー大会が開催される。

北の嵐山　嵐山の麓にある陶芸の窯元、ガラス、染色・木工などの工房ギャラリー、カフェ、レストランなどが十数件集まっているエリア。嵐山からは旭川を一望することができるなど、地域一帯が住民の散歩スポットとなっている。7 月にはギャラリーウォークなどのイベントも開催される。

旭川デザインセンター　旭川及び近隣町村の統一ブランドである「旭川家具」が一堂に会しており、自由に見学することができる。３年に１度、国際家具デザインフェア旭川(IFDA)も開催されており、世界水準の家具が誕生する場所でもある。

旭川夏まつり　８月上旬、旭橋河畔、平和通買物公園、昭和通りを中心にまつりが繰り広げられる。道新花火大会や市民舞踊パレード、大雪連合神輿などのほか、同時開催される大雪さんろくまつりや烈夏七夕まつりで旭川の街が一気に燃え上がる。

北の恵み 食べマルシェ　９月中旬､平和通買物公園等の中心市街地を会場に開催される食のイベント｡旭川をはじめ、北北海道各地の農・畜・海産物やご当地グルメなどが、旭川の街に出現した巨大市場に集結する。

あさひかわデザインウィーク　６月中旬、ユネスコデザイン都市の旭川及び近郊で開催されるデザインの祭典。世界に誇るものづくり技術と高いデザイン性が融合した旭川のものづくりやまちづくりなど、地域とデザインの可能性を探るイベント。期間中は旭川市内及び近郊で、様々な関連イベントが開催される。

〔視察のみどころ〕

平和通買物公園　昭和 47 年、日本で初めての、恒久的歩行者天国「平和通買物公園」が創られた。多彩な専門店が軒を連ねるメインストリートとして多くの市民や観光客に親しまれている。

北邦野草園　野草の女王といわれるシラネアオイをはじめカタクリ、エゾエンゴサク、ウコンウツギなど約 600 種もの植物が生息し、北方系植物の集成群落としても国内有数。遊歩道に沿って季節の花が咲き誇り、訪れる人の目を楽しませてくれる。また、園内はエゾリス、シマリス、キツツキなどの珍しい北の動物もすみつき訪れる人を出迎えてくれる。

伝承のコタン　アイヌ文化の保存と伝承のため、市西部の嵐山公園内に往時のコタン（集落の意）の姿を復元。チセ（笹葺き住居）や食料庫などが正確に復元されており、資料館ではアイヌの植物利用に関する品々を展示している。

旭川市博物館　「アイヌの歴史と文化に出会う」をテーマに，アイヌ文化に関する資料や近代の生活資料，自然科学資料等が豊富に展示され，古代から現代まで続く旭川市をはじめとした北北海道の歴史や文化を学ぶことができる。

士別市　しべつし

役場所在地　北海道士別市東６条４丁目１番地
郵便番号　０９５－８６８６
電話番号　（０１６５）２３－３１２１
ＦＡＸ番号　（０１６５）２２－１９３４
市町村コード番号　０１２２０３
市町村別類型　Ｉ－１
交通機関　宗谷本線士別駅から徒歩１５分
ホームページ　http://www.city.shibetsu.lg.jp

〔市名の由来〕
士別は、アイヌ語の「シュペッ」（大いなる川）から転訛したものである。

〔市章の由来〕
大きな楕円は大地を意味し、合併した士別市と朝日町を表している。中心のＳは士別市の英字頭文字と天塩川の流れを、小さな楕円との組み合わせで駆ける人を表し、大地と共に躍動し、自然の中にすなおに溶け込む士別市の姿を表現している。

〔地　勢〕
上川盆地のほぼ中央部に位置し、東南端には北見山地の最高峰天塩岳（標高 1,557.6m）があり、この頂を源とする天塩川が中央部をゆるやかにカーブして北上し地域一帯は、標高 200m以下の肥沃な沖積平野であり、水利に恵まれた広大な農業地帯を形成している。
また、東部、南部西部地域は、山岳森林をもって占められその大半は国有林であり、豊富な森林資源を擁している。

〔歴　史〕
明治 32 年７月１日屯田兵の入植で開かれ、明治後期から大正時代は澱粉製造、木材産出の街として栄えた。一方、稲作は大正末期から本格的な造田が始まり、極寒の地は全国屈指の水田地帯に生まれ変わり、北海道北部の中心都市として急速に人口も増加した。大正４年には町制を施行し、更に昭和 29 年には士別町、上士別村、多寄町及び温根別村の近隣４町村が合併し市制を施行した。
朝日地区においては、明治 38 年道内各地から 100 戸が移住し開拓が始められ、大正６年には帝室林野管理局分担区員駐在所（旧営林署）が設置され、森林資源の管理、開発が行われた。その後、昭和 24 年に上士別村から分村独立し、朝日村が誕生し、昭和 37 年に町制を施行した。
平成 17 年９月１日、士別市と朝日町は対等合併により新生「士別市」となり、新たな歴史をスタートさせ、この合併を契機として、これまで両市町が培ってきた貴重な宝である「この地域の特性を生かしたまちづくり」を推し進めるべく、肥沃で広大な大地・自然環境という恵まれた共通した財産を融合し有効活用した中で、「新市建設計画」及び「士別市過疎地域自立促進市町村計画」を基本としたまちづくりを展開している。

〔市政のあゆみ〕
明治 32 年　士別市に屯田兵 100 戸が入植
〃　38 年　朝日地区に道内各地から 100 戸が入植
大正 4 年　士別村が町制施行
昭和 24 年　上士別村から朝日村が分村し独立
〃　29 年　７月１日に１町３村が合併し市制施行
〃　37 年　朝日村が町制施行、低工法の地区指定、士別－紋別間道路開通
〃　40 年　士別－苫前道路開通
〃　45 年　岩尾内ダム完成
〃　47 年　下水道終末処理場着工、士別地方消防事務組合・士別地方衛生事務組合設立
〃　49 年　士別市総合体育館完成、朝日簡易水道完成
〃　53 年　天塩岳道立自然公園に指定
〃　55 年　つくも水郷公園の完成
〃　56 年　士別市立博物館完成、上士別集落排水施設供用開始
〃　57 年　一般廃棄物最終処理場完成
〃　58 年　ポンテシオ発電所発電開始
〃　60 年　温根別ダム完成
〃　62 年　市立士別総合病院完成
平成元年　瑞穂獅子舞伝習館完成、公会堂展示館開館
〃　3 年　士別地方卸売市場完成、特別養護老人ホーム「朝日美土里ハイツ」完成、桜丘荘・桜丘デイサービスセンター完成
平成 4 年　体験型学習施設「羊飼いの家」完成、全天候型陸上競技場完成
〃　6 年　あさひサンライズホール完成、特別養護老人ホーム「コスモス苑」完成
〃　8 年　市民文化センター完成
〃　9 年　スポーツ合宿センター（士別 inn 翠月）完成
〃　11 年　ゴールバーン市（オーストラリア）と姉妹都市提携
〃　12 年　愛知県三好町と友好都市提携、朝日地区公共下水道供用開始、活性化施設「まなべーる」完成、農村公園「わんパーク」完成
〃　14 年　士別市中心市街地交流施設「ぷらっと」完成
〃　15 年　道央自動車道和寒ＩＣ－士別剣淵ＩＣ開通
〃　17 年　生涯学習情報センターいぶき完成、士別市と朝日町の合併により新生「士別市」誕生、士別中学校新校舎完成
〃　21 年　農畜産物加工体験交流工房「の～む」完成、めん羊工芸館「くるるん」完成
〃　22 年　朝日地域交流センター「和が舎」完成
〃　24 年　士別市まちづくり基本条例・士別市議会基本条例施行
〃　25 年　「士別市子どもの権利に関する条例」施行、あけぼの子どもセンター「愛遊夢」完成、福島県川内村と「絆づくり協定」締結

平成27年　レストラン羊飼いの家リニューアルオープン
〃　28年　上士別小学校及び上士別中学校新校舎完成、士別市いきいき健康センター完成
〃　29年　士別市環境センター完成
平成31年　ほくと子どもセンター「つなぐ」完成
令和元年　士別市新庁舎完成、翌年５月移転

〔行政施策の重点事項〕
１．元気でいきいきと交流が盛んなまちづくり
２．誰もが健やかに安心して暮らせるまちづくり
３．北の大地に根ざした活気みなぎるまちづくり
４．いつまでも住みつづけられる快適環境へのまちづくり
５．風土に調和し個性と文化を育むまちづくり

〔産業・経済〕
１．農　業　　基幹産業である農業は豊かな土地と水に恵まれ発展してきており、現在は稲作を中心に小麦、大豆、小豆、馬鈴薯、てん菜等の畑作物も幅広く生産し、アスパラ等の特産化も進んでいる。また、乳・肉牛をはじめ養豚、養鶏などの酪農、畜産業も本市農業の重要な役割を果たしており、近年、サフォーク種めん羊の普及拡大への取組などにより、全国的な羊肉ブームにより道内外から注目を集めている。
２．林　業　　林野面積は82,362ha、林野率は約74%であり、朝日地区においては、46,865haと総土地面積の約90%を占めておりほとんどが国有林となっている。近年は、伐採量や良質材の減少など大きな課題を抱えているなか、小径木を利用した木工品や集成材、朝日駒や銘木表札など付加価値の高い製品を生産している。
３．商工業　　多様化する消費者のニーズに対応し、市民が楽しいショッピングができる環境づくりを進めている。商店街の活性化を図り、魅力ある商店街の形成に向け、官民一体となって商業都市づくりを目指している。また、農業の主産物を活用した食品工業、農業関連、木材、木製品工業など地域の特性を生かした製品づくりを進める一方、将来の安定した工業の発展に向け、工業基盤、企業の誘致を努めている。

〔文化・観光〕
屯田兵屋　　士別が屯田兵の入植で開かれたことから、当時の苦労をしのんで明治32年建設の旧兵屋が保存されている。
祖神の松　　樹齢１千数百年のイチイの大樹で、荘厳な姿形は他に比類なく、環境庁が実施した巨木・巨樹調査の部で全国２位にランクされ、山の守り神として崇められている。
九十九山　　屯田兵99戸の入植にちなんで名付けられた山で、５月にはエゾヤマザクラなどの桜が咲き競い多くの花見客でにぎわう。
不動尊霊水　　古くから不治の病に効くと言い伝えられる一条の滝があり、北海道の名水100選にも選ばれている。
天塩川まつり　　士別の発展を見守り続けてきた母なる川・天塩川の恩恵に感謝する祭り。例年８月中旬に開催され、納涼花火大会を皮切りに、川舟みこしや千人踊り、飲み食い天国など様々なイベントが行われ、市民をはじめ多くの人たちで賑わう。
瑞穂獅子舞　　明治38年の入植時に富山県人により伝えられた越中獅子舞をもとに創舞され、昭和44年には旧朝日町において無形文化財に指定された。現在も神社祭や記念式典などさまざまな場所において華麗な舞を披露している。
あさひサンライズホール　　例年多くの舞台やコンサートが行われ、多くの人々が訪れる。近年は従来の鑑賞型事業を土台とした地域住民が参加する参加型の事業を展開しており、こういった活動が高く評価され2005年（財）地域創造ＪＡＦＲＡアワードにおいて総理大臣表彰を受賞した。
天塩岳道立自然公園　　標高 1,557.6mを誇る北見山地の最高峰天塩岳の山頂を目指しビギナーからベテランまで例年多くの登山客が訪れている。山開きは例年６月上旬頃で、登山道周辺には多くの貴重な高山植物が美しく彩り登山客の目を楽しませている。

〔視察のみどころ〕
つくも水郷公園　　駅から約２km、年間利用者数４万人と市民をはじめ多くの人々に利用されている天塩川の旧河川敷に造成された総合公園。公園内には「つくも青少年の家」「士別市サイクリングターミナル」がある。隣接する天塩川水郷緑地には４面の天然芝サッカー場やテニスコート、ソフトボール場が整備されている。
日向森林公園　　多寄市街より約４km、自然に囲まれた山あいの20haという広大な敷地に、林間キャンプ場、バンガローなどが整備されているほか、日向スキー場、日向温泉が隣接している。
羊と雲の丘　　士別駅から3.5km西側の丘陵地帯の37.4haの草原に羊がのどかに草を喰んでおり、春には羊の毛刈り体験、夏には牧羊犬のシープドッグショーが行われる。また、丘の中腹にある「世界のめん羊館」では30種類のめん羊が飼育され、丘の頂上にある「羊飼いの家」ではサフォーク料理をメインとしたレストランがあり、雄大な自然を満喫しながら食事を楽しむこともできる。
ふどう運動公園　　スポーツ総合センター「しべつ inn 翠月」に隣接し、公園内には全天候型の陸上競技場や市営球場が設備され、グリーンスポーツ施設内には、足に優しいアスファルト乳化剤が施されたクロスカントリーコースやキャンプ場・ロッジが整備されている。また、市立博物館や公会堂などの文化施設も設備されている。
岩尾内湖　　昭和45年に天塩川をせき止めた人造湖「岩尾内湖」は、年中通しドライブコースとして親しまれている。夏はキャンプ地、秋は紅葉と多くの観光客が訪れる、例年７月には湖水まつりが行われる。
新庁舎　　将来を見据えた「コンパクトな庁舎」を建設。議場は、傍聴席も含めて全面フラットとし、多目的利用に対応するなど、施設全体の稼働率向上を図っている。また、庁舎整備に併せて文書管理の改善を行い、執務空間の省スペース化・執務環境の最適化を行っている。

名寄市　なよろし

【名寄庁舎】
役場所在地　北海道名寄市大通南１丁目１番地
郵便番号　０９６－８６８６
電話番号　（０１６５４）３－２１１１
ＦＡＸ番号　（０１６５４）２－５６４４
市町村コード番号　０１２２１１
市町村別類型　Ｉ－１
交通機関　宗谷本線名寄駅から徒歩８分
ホームページ　http://www.city.nayoro.lg.jp/

【風連庁舎】
名寄市風連町西町１９６番地１
０９８－０５０７
（０１６５５）３－２５１１
（０１６５５）３－２５１０

〔市名の由来〕
アイヌ語の「ナイ・オロ・プト」（川・の処の・口）がナイブト、ナヨロブト（名寄太）などと表記されたことが由来である。

〔市章の由来〕
平成18年、旧風連町と旧名寄市の合併を機に制定された。名寄市の頭文字「Ｎ」をモチーフに、溢れる自然の恵みに天を仰ぎ感謝し、北の都をみんなで力を合わせ造り上げ発展していく様子を表現。新市を誇りに、市政と共に飛躍していく、躍動感のあるデザインとしている。

〔地　勢〕
北・北海道の内陸の名寄盆地のほぼ中央に位置し、東は雄武町と下川町、西は幌加内町、南は士別市、北は美深町に接している。その市域は、東西に約30㎞、南方に約35㎞の四角形に近い形となっており、行政面積は535.23㎢である。市の北東部にピヤシリ山（987m）があり、一級河川の天塩川が士別市から市内を経て天塩町に流下し、東方から名寄川が合流している。
道路は南北に国道40号、東側に国道239号が通り、また鉄道は南北に宗谷本線が走っており、古くから交通の要衝として幅広い生活圏域を形成し、道北圏の中心都市として発展してきた。

〔歴　史〕
開拓の歴史は、旧風連町が明治32年、個人入植者が移住し、旧村名「多寄村」の名称のもとに剣淵村外３ヵ村戸長役場の管轄に入ったことにはじまり、明治35年に上名寄村戸長役場の管轄となり、風連村を経て、昭和28年、町制施行により風連町となる。旧名寄市は明治33年、山形県東田川郡東栄村（藤島町を経て鶴岡市）の団体により市内曙地区に開拓の鍬が下ろされて以来、上名寄村、名寄町を経て、昭和29年に智恵文村と合併後、昭和31年に道内21番目の市制を施行している。さらに、平成18年３月、風連町と名寄市が合併して、新「名寄市」が誕生し、新たな歴史がスタートした。

〔市政のあゆみ〕
明治32年　多寄村（旧風連町）、上名寄村（旧名寄市）剣淵外３ヵ村戸長役場の管轄に入る
〃　33年　本格的な開拓が始まる
〃　35年　上名寄外２ヵ村戸長役場設置
〃　42年　多寄村、上名寄村としてそれぞれが独立し、風連市街地に多寄村役場庁舎完成
大正４年　上名寄村が名寄町に改称
〃　９年　下名寄村（美深町）から智恵文村が独立
〃　11年　名寄町役場庁舎落成
昭和７年　忠烈布貯水池完成
〃　12年　名寄町立社会病院開設（現　市立総合病院）
〃　13年　多寄村が風連村に改称
〃　18年　雨龍発電所完成、発電開始
〃　23年　風連村国民健康保険病院開設
〃　28年　町制施行で風連村が風連町に改称
〃　29年　名寄町と智恵文村が合併し「名寄町」発足
〃　31年　市制施行で名寄市に改称
〃　35年　市立名寄女子短期大学開学
〃　43年　名寄市役所庁舎新築落成（現名寄市役所名寄庁舎）
〃　44年　名寄市がカナダ・オンタリオ州リンゼイ市と姉妹都市宣言
〃　45年　市立名寄図書館新築落成
〃　48年　国設名寄ピヤシリスキー場オープン
〃　50年　名寄市スポーツセンター完成
〃　55年　風連町役場新庁舎完成（現名寄市役所風連庁舎）
〃　56年　ふうれん望湖台自然公園オープン
〃　58年　名寄市民文化センター開館
昭和62年　名寄・遠別線「名母トンネル」開通
平成元年　風連町が東京都杉並区と友好交流自治体調印
〃　２年　広域火葬場「名風聖苑」開所
〃　３年　名寄市がロシア共和国サハリン州ドリンスク市と友好都市提携
〃　４年　名寄市立総合病院改築　名寄市立木原天文台開設
〃　６年　ピヤシリシャンツェ・ミディアムヒル完成
〃　８年　名寄市北国博物館オープン、なよろ健康の森開園、名寄市が山形県藤島町と姉妹都市提携
〃　９年　名寄バイパス（１工区）供用開始
〃　10年　市立総合病院が地方センター病院に指定
〃　16年　風連町・名寄市合併協議会設置
〃　18年　風連町と名寄市が合併し「名寄市」発足、道立サンピラーパーク開園、名寄市立大学開学
〃　19年　北国雪国ふるさと交流館「雪あかり館」開設
〃　20年　道の駅「もち米の里☆なよろ」オープン
〃　22年　なよろ市立天文台「きたすばる」オープン、ふうれん地域交流センター「風っ子ホール」オープン
〃　23年　風連国民健康保険診療所、ふうれん健康センター開所
〃　25年　駅前交流プラザ「よろーな」オープン
〃　26年　市立総合病院新館及びヘリポート運営開始、道立「トムテ文化の森」が名寄市に移管
〃　27年　新市民ホール「ＥＮ－ＲＡＹホール」完成
〃　29年　名寄市立大学新図書館オープン

〔行政施策の重点事項〕

名寄市総合計画（第２次）の推進を基本として、「自然の恵みと財産を活かしみんなでつくり育む未来を拓く北の都市・名寄」を将来像に掲げ、「人づくり」「暮らしづくり」「元気づくり」の３つを基本理念とし、この基本理念を具体的に推進するため、４つの重点プロジェクト及び５つの基本目標を掲げ施策を展開する。

●重点プロジェクト１.【経済元気化プロジェクト】　地域経済の好循環を図り、まちに元気を生み出すため、新たな産業の創出や地域ブランドの確立を促進し、雇用の場・人材の確保などに努めるとともに、交流・関係人口の拡大に向け、移住・交流の推進に努めていく。また、地域経済の好循環に向けて、民間と協働で「地域通貨」事業を推進に努めていく。

●重点プロジェクト２.【安心子育てプロジェクト】　安心して子どもを産み育てることができる環境を充実させるために、子育てと仕事の両立支援や子育て家庭への支援などを行ない、少子化対策・人口減少対策の強化に努めていく。

●重点プロジェクト３.【冬季スポーツ拠点化プロジェクト】　本市の自然環境・施設環境の強みを活かして、冬季スポーツの拠点化を目指すために、冬季スポーツ合宿・大会誘致と併せて、ジュニア世代の育成強化を推進するとともに、冬季スポーツを通して故郷への誇りと愛着を持てる人材の育成に努めていく。

●重点プロジェクト４.【生涯活躍プロジェクト】　少子高齢化、特に生産年齢人口の減少が進む中、年齢や国籍、性別、障がいのあるなしに関わらず、地域の担い手として参画し、それぞれのライフスタイルに応じて役割や生きがいを持つとともに、生涯健康で活躍できる環境づくりに努めていく。

○基本目標１．市民と行政との協働によるまちづくり〔市民参画・健全財政〕　市民がまちづくりに参加できる機会を広げ、故郷への誇りと愛着が育まれるまちづくりに努めていく。また、市政に関する情報公開・共有化を図るとともに、人権尊重、男女共同参画の推進を図る。さらに、行財政改革を推進し、行政運営の見直しを行うとともに、ＩＣＴを活用した市民サービスの向上に努め、持続可能なまちづくりのため、効果的・効率的な行政運営を進める。

○基本目標２．市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり〔保健・医療・福祉〕　住み慣れたこの地域で、こども、高齢者、障がい者などすべての市民が、互いに支え合いながら自分らしく生きるため、保健医療福祉の連携を進め、民生委員児童委員をはじめ市民の方々と協働して、みんなにやさしい福祉のまちづくりを進める。

○基本目標３．自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり〔生活環境・都市基盤〕　豊かな自然環境の保全や快適な居住環境の整備、ごみの適正処理による生活環境の整備、消防・救急、防災、交通安全など生活安全対策の強化に努める。都市機能を集約しコンパクトなまちづくりを推進するとともに、交通ネットワークの整備や道路・公園・上下水道・公営住宅などの都市基盤施設の維持や冬の道路環境の向上など、安全安心なライフラインの確保に努める。

○基本目標４．地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり〔産業振興〕　収益性の高い農業生産や農畜産物の付加価値向上に向けた取組を推進する。また、森林施業の集約・効率化を図り、森林保全と林業の振興に努めるとともに、担い手の育成・確保を推進する。さらに、活力溢れる中心街、農林業と商工業が融合した産業の振興を図り、雇用の安定に努め、地域資源を活用した体験型メニューの充実などにより、インバウンド観光の推進にも努める。

○基本目標５．生きる力と豊かな文化を育むまちづくり〔教育・文化・スポーツ〕　未来を担う子どもたちが、多様な可能性を伸ばすことができるよう、教育・保育施設から名寄市立大学、さらに家庭や地域社会がそれぞれの役割を果たし、「生きる力」を育む教育に努める。また、すべての人が生涯にわたって学習し、文化・芸術、スポーツ活動ができる環境をつくり、市民が誇れる優れた人材の育成に努め、豊かで活力あるまちづくりを進める。

〔文化・観光〕〔視察のみどころ〕

天然記念物「名寄鈴石」　5～6㎝くらいの固い殻と核心となる内容物とからなり、殻は珪質の粘土と酸化鉄と微砂が固形化したもので、中には球顆の入ったものもあり、振ると「カラカラ」又は「シャンシャン」と音がする。昭和 14 年 9 月天然記念物指定。

天然記念物「名寄高師小僧」　植物の根茎を核心に珪質の粘土、酸化鉄、微砂などが膠結した管状の塊で、外面、断面とも褐色のものが多く、根茎の部分は滅失して中空になり、細い穴が貫通し、管状になっている。昭和 14 年 9 月天然記念物指定。

智恵文沼　天塩川による河跡湖で、ヒブナ、ヘラブナ、コイなどがいる。釣り場として全道的に有名。

ピヤシリ登山道路　標高 986.8mのピヤシリ山は、名寄市の象徴である。車と徒歩で１時間で頂上を臨むことができ、晴天のときには、遠くオホーツク海、日本海は利尻富士を望むことができる。頂上付近のはい松、岳樺、高原湖は奇観といえる。

ふうれん望湖台自然公園　忠烈布湖周辺を観光レクリエーションの場として整備。水と緑に囲まれ四季折々の花でにぎわう自然景観に恵まれた憩いの場として利用されている。キャンプ場、オートキャンプ場、バーベキューハウス、コテージがある。

道立サンピラーパーク　平成 18 年 11 月に供用を開始した道立広域公園。公園内にはオートキャンプ場やコテージが整備されており、８月には一面のひまわり畑が広がり、心が癒される魅力的な公園空間の整備が整えられている。また、サンピラー交流館は国内最大級のカーリング場や室内遊具などを備えており、多くの利用者が訪れている。

ピヤシリスキー場　変化に富んだ９つのコースにチャレンジでき、３基のスキーリフト、ふもとには「なよろ温泉サンピラー」が、多くの宿泊客（合宿客）を迎える本格派スキー場。昭和 54 年及び平成 15 年には冬季国体も開催された。雪質日本一がキャッチフレーズ。昭和 63 年７月ＦＩＳ公認。

ピヤシリシャンツェ　毎年国内最初の公式大会を開催。また、平成７年にサマージャンプも可能なミディアムヒル（50m級）が新設され、既設のノーマルヒル（70m級）を平成 14 年にサマージャンプも可能な台に整備し２基のジャンプ台が並んでいる。

なよろ健康の森　総面積 200ha の壮大な広さを誇り、健康と生きがいを高めるスポーツ文化交流のための施設、夏は陸上競技、パークゴルフ、キャンプ場として利用される他、森林浴を楽しむ事ができる。冬は、クロスカントリーや歩くスキーコースとしても利用され、ジュニアオリンピックが開催される等ノルディック種目のスキー大会が行われている。

なよろ市立天文台　従来の名寄市立木原天文台と名寄市プラネタリウム館を引き継ぎ、統合する形で平成 22 年 4 月にオープンした天文台。名寄市の施設だが、観測ドーム内には北海道大学が公開天文台として国内２番目の大きさとなる口径 1.6mの大型望遠鏡を設置している。また、最新のデジタルプラネタリウムも設置されている。

名勝「ピリカノカ　九度山」　九度山は名寄市内から望める 673.6m の山で、山名はアイヌ語の「クトゥンヌプリ」（岩崖がある山）に由来する。先住のアイヌの人たちにとって日々の祈りの対象であり、現在ではピヤシリスキー場でのウィンタースポーツや登山道を利用した自然探訪に多くの市民に活用されている。九度山はアイヌの時代から現在に至るまで四季を通じて親しまれている地域のシンボル的な山であった。文科省は平成 21 年にアイヌの物語・伝承、祈りの場、言葉に彩られた優秀な景勝地群を「ピリカノカ（美しい形）」と総称して保護を図る目的で、国の名勝としてその山頂部を指定した。

富良野市　ふらのし

役場所在地　北海道富良野市弥生町１番１号
郵便番号　０７６－８５５５
電話番号　（０１６７）３９－２３００（総務課）
ＦＡＸ番号　（０１６７）２３－２１２０（総務課）
市町村コード番号　０１２２９７
市町村別類型　Ｉ－１
交通機関　根室本線富良野駅から徒歩１０分
ホームページ　http://www.city.furano.hokkaido.jp/

〔市名の由来〕
「フラヌイ」と称する硫黄臭き火炎の土地というアイヌ語より「富良野」と転化したものであると云われている。

〔市章の由来〕
富良野市の「フ」と外周の輪は富良野、山部、東山の三つの部分を組み合わせて悠久の平和と市民の融和をデザインし、鋭角、陵線は富良野をとりまく山岳美と市勢の雄飛発展を表している。

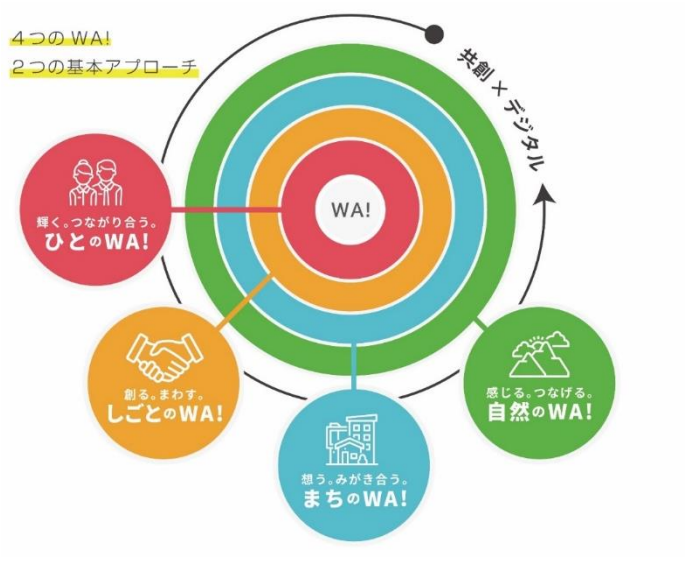
〔地　勢〕
北海道のほぼ中央に位置し、上川地方の南部に広がる富良野盆地の中心にあり、東には大雪山系十勝連峰を望み、日高山系に続いて北方に伸びる夕張山系の芦別岳を西に仰ぐ。北海道の代表的な山系に囲まれた盆地には、空知川が南北に貫流し、豊穣肥沃な土地は、稲作をはじめ玉ねぎ・アスパラ・ぶどう果樹など道内において産するほとんどの作物が栽培に適している。

〔歴　史〕
明治29年に植民地区画が設定され、明治30年8月に民間人最初の入植者が千古のなぞを秘める原始林と蒼芒たる湿地原野に開拓の鍬をふるったことによって拓かれ、国鉄根室本線・富良野線の分岐点や国道38号線・237号線が交差する道東、道南、道北への交通の要衝で、林産物や農産物の集積地として発展した。
昭和41年に山部町と合併して市制を施行した青年産業都市であり、農村人口の都市あるいは他産業への流出も若干みられたが近年はむしろ郷土にとどまる傾向も強く、産業生産物の２次３次加工事業の積極的な取組により、着実にその成果をあげている。
また、昭和44年に広域市町村圏の指定を受け、農業を基盤とする富良野地方１市３町１村の拠点都市とした恵まれた自然条件を最大限に活用し活気ある豊かな生活圏と美しい快適な生活環境を創造するよう鋭意努力を重ねている。また、日本のスイスと自負する「山紫水明の里」富良野は道立自然公園の指定も受け、観光開発はもとより、冬季スキー国体やワールドカップスキー大会を開催するなどの世界に誇る富良野スキー場がある。

〔市政のあゆみ〕
昭和31年　東山村と合併して新富良野町となる。
〃　41年　山部町と合併して富良野市となる。市政及び市章を制定
〃　42年　市立農業高校を山部に開校、富良野・中富良野学校給食センターを開設
〃　43年　八幡丘パイロット事業着工、郷土館建設
〃　44年　市民憲章制定、市役所庁舎落成
〃　46年　老人ホーム「寿光園」落成
〃　47年　文化会館落成
〃　48年　開基70周年
〃　49年　消防組合設立、スポーツセンター落成、ふらのワイン研究体制確立
〃　50年　福祉施設「北の峯学園」開設、第30回国体スキー競技会開催
〃　51年　陸上競技場落成、シュラートミンク市との姉妹都市提携を議決
〃　52年　FISワールドカップ富良野大会開催（以降、平成18年まで計11回開催）
〃　53年　ふらのワインの販売開始、兵庫県西脇市と友好都市提携
〃　54年　屋内水泳プール落成
〃　55年　公共下水道事業に着手、ワイン製造永久免許下附、老人福祉センター完成
〃　58年　開基80周年市制施行18年記念式典
〃　59年　ふらのチーズ販売開始、有機物供給センター落成
〃　60年　布部小中学校校舎落成
〃　61年　布札別小中学校校舎落成
昭和62年　山部小学校校舎落成
〃　63年　農業廃棄物処理施設操業開始、布札別小中学校校舎落成、山部福祉センター完成
平成元年　富良野市特産開発センター完成
〃　2年　公共下水道供用開始
〃　3年　図書館・情報プラザ完成
〃　5年　開基90周年、チーズ工房・チーズ公園完成
〃　6年　富良野看護専門学校開校
〃　8年　市制施行30周年
〃　9年　富良野市地域福祉センター完成
〃　12年　富良野演劇工場オープン
〃　14年　富良野市生涯学習センター完成
〃　15年　開庁100周年、富良野市民野球場完成
〃　17年　全国高等学校選抜スキー大会開催（以降、平成26年まで毎年開催）
〃　21年　山部小学校体育館落成、旧屋内水泳プールのサブアリーナ化
〃　22年　西中学校体育館落成、「フラノマルシェ」オープン
〃　23年　「北の国から」放映30周年事業、富良野スキー場開設50周年事業
〃　24年　北海道大学農学研究院及び観光学高等教育センターと連携協定締結
〃　25年　東中学校体育館落成、定住自立圏形成協定締結（富良野市、上富良野町、中富良野町、占冠村の１市３町１村）
〃　26年　富良野市農業担い手育成センター開設、東小学校校舎及び屋内運動場落成

平成27年「フラノマルシェ２」オープン
平成28年　市制施行50周年
〃　30年　「コンシェルジュ フラノ」オープン
令和 4年　富良野市複合庁舎落成により庁舎移転、供用開始

〔行政施策の重点事項〕
■まちづくりスローガン
「美しい」のその先へ。ＷＡ！がまち、ふらの
■まちづくりコンセプト



〔産業・経済〕
富良野市の産業は、農業が基幹であるが、近年では、第３次産業、主にサービス業が高い伸び率を示している。
農業は肥沃な土地と水資源を背景に米作・畑作・野菜・家畜を中心に多種多様な農畜産物を生産している。商工業では、多様な業種による均衡のとれた発展を目指し、フラノマルシェを核とした中心市街地の活性化や利便性の高い買い物環境を整えることで、市民と観光客が魅力を感じる空間の創出に努めている。

〔文化・観光〕
〈郷土の文化〉　開拓の先人が築いた古い歴史を大切にしながら、地域開発の発展と自然保護の調和を保ち、文化財、史跡等の遺産や、伝統的に伝わる文化風土の保存、保護に努めるとともに、文化会館を活動の場として新しい時代を切り拓く独自の市民文化を創造する。先住民族鳥沼遺跡、開拓の人中村千幹像、北海道中央経緯度観測標（北海道中心標）、富良野獅子舞、山部獅子舞など、古い歴史を大切に保存継承するほか、富良野弥栄太鼓をはじめ新しい文化の創造にもたゆみない努力が払われている。また、文化連盟を中心とするグループ・サークルも50余団体を数え、中央文化導入など活発な活動が展開されている。
〈観　光〉　桜の名所として知られる朝日ヶ丘からの展望は富良野平原を一望でき、日本百景の一つに選ばれている。北海道のどまん中の観測標もあり、へそ神社、へそ松、へそ岩もある。また、市民あげての「北海へそ祭り」も大自然の中に溶け込んでいる。道立自然公園の指定を受けた代表的なものに、芦別岳、富良野岳、原始ヶ原、東大樹木園、樹海、鳥沼公園、朝日ヶ丘などがある。また、美しい眺めと良質な雪質、変化に富んだ4,000mのダイナミックなスロープの富良野スキー場は日本屈指のスキー場としてその名を知られ、現在までに10回、FISワールドカップが開催されている。

〔視察のみどころ〕
ふらのワインハウス　　から松林の美しい清水山グリーンランドの山頂にあるワインハウスで美しいパノラマ風景を眺望して食すステーキ、地場酒「ふらのワイン」は一段とその味を増す。
ふらのワイン工場　　地場産業の一環として、多年にわたる試験研究と技術開発を進め、原料生産から販売まで一環体制の確立を図り、良質な原料と優れた技術から生まれた「ふらのワイン」は芳醇な味と香りを誇りとしている。
北海道中心標　　明治42～43年頃、京大教授山本博士（天文学）が星座観測、緯度観測、地球の動測定を行い北海道の中心標として建立したのが、北海道中央経緯度観測標である。昭和31年北海タイムス社の北海道文化財百選に選ばれている。
ふらのチーズ工房　　富良野の牧場で生産される牛乳を原料に「ふらのチーズ」「ふらの牛乳」を製造・販売し、試食、製造過程の見学ができ、体験工房では、農産物の加工体験ができる。
富良野演劇工場　　演劇活動がもつ生涯学習機能を活用し、演劇を単に「観る」だけでなく「創る」側に参加し、より柔軟で独創的な市民文化の活動拠点となっている。客席の勾配を高くすることによりどの席からも舞台が一望できるように工夫されている。客席数314席（森の中の小さな劇場）
フラノマルシェ　　富良野の「食と農」の魅力を発信する施設。敷地内には農産物直売所やできたてパン、スイーツ、カフェが並び、また富良野みやげが一同に揃う物産センター、テイクアウトショップなどがある。
コンシェルジュ フラノ　　平成30年6月にオープン。空きビルを再生した複合施設として、1階は観光案内所および土産物販店である「富良野物産観光公社コンシェルジュ店」、富良野産食材にこだわったアジアンレストラン「KITCHEN EVELSA（キッチン エベルサ）」を設置。2階は市経済部商工観光課、（一社）ふらの観光協会、富良野商工会議所等のシェアオフィス、3階はドミトリー形式の宿泊施設「HOSTEL TOMAR（ホステル トマール）」を配備。富良野地域の観光の更なる向上、また、中心街及び地域経済活性化を目指したおもてなしの拠点として多様なニーズへの対応を図っている。

鷹栖町　たかすちょう

役場所在地　北海道上川郡鷹栖町南１条３丁目５番１号
郵便番号　０７１－１２９２
電話番号　（０１６６）８７－２１１１代表
ＦＡＸ番号　（０１６６）８７－２１９６
市町村コード番号　０１４５２４
市町村別類型　Ⅱ－０
交通機関　函館本線旭川駅からバスで３５分
ホームページ　https://www.town.takasu.hokkaido.jp/

〔町名の由来〕

上川総合振興局管内の中央部に位置し、北にある和寒町に接するほかは旭川市に囲まれた139.42㎢の広さを有する町である。周りを小高い山に囲まれているため、全体的には盆地状の地形をなしている。町の中心部を石狩川に注ぐオサラッペ川が北から南へ貫流しており、その流域は平坦地が多く地味も肥沃で、米作地帯として理想的な農地が拓け、道内でも屈指の米産地となっている。

〔歴　史〕

明治25年２月、石狩国上川郡の石狩川右岸流域の区域一帯を鷹栖村として開村した。明治30年に愛別村を分村、さらに、明治39年の２級町村制施行と同時に比布村を分村し、明治42年４月から１級町村制を施行した。大正年間に入ると村勢も大いに発展し、大正13年６月、近文原野を中心とする東鷹栖村、オサラッペ原野を中心とする鷹栖村、江丹別原野を中心とする江丹別村の３村に分離し、鷹栖村役場を10線10号に置いた。

その後、水稲農業を基幹とする産業の発展に伴い、昭和44年には町制を施行し鷹栖町として現在に至っている。

平成４年２月には、100歳の誕生日を迎え、開基100年記念式典ほか関連行事を実施するとともに、記念施設として「たかすメロディーホール」「総合体育館」を建設、平成11年には本町が30年近くにわたり取り組んできた高齢者福祉活動の拠点的施設として「サンホールはぴねす」の建設など、“心とからだの健康づくり”を主眼とした町づくりを積極的に進めている。

〔町政のあゆみ〕

昭和44年　町制施行
〃　47年　町民憲章制定
〃　49年　町民の日制定
〃　52年　役場総合庁舎落成移転
〃　54年　町立歯科診療所開設、道立鷹栖養護学校開校
〃　56年　鷹栖高校道立移管、メロディー橋完成
〃　58年　統合鷹栖中学校開校
〃　59年　トマトジュース「オオカミの桃」市販開始
〃　61年　㈱鷹栖町農業振興公社設立、公共下水道一部供用開始
〃　63年　特別養護老人ホーム「さつき苑」開所、都市計画街路整備事業着工
平成元年　町営バス運行開始、横浜ゴム㈱冬用タイヤテストコース開設
〃　２年　本田技研工業㈱北海道総合試験場建設着工、道央自動車道（深川～旭川鷹栖間）開通
〃　３年　知的障害者更生施設「大雪の園」開設、国際交流アシスタント招致事業開始、北野市街地の住居表示実施
〃　４年　開基100年記念式典、ゴミの分別収集開始、鷹栖市街地の住居表示実施
〃　５年　桜づつみ事業開始
〃　６年　メロディーホール・総合体育館完成、鷹栖工業団地分譲開始
〃　７年　ゴールドコースト市（オーストラリア）と姉妹都市提携
〃　８年　農産加工施設「四季の里」開設、本田技研工業(株)北海道総合試験場鷹栖プルービングセンター完成
平成10年　蛇山の名称が「パレットヒルズ」に決定
〃　11年　サンホールはぴねす開設
〃　12年　道央自動車道（旭川鷹栖～和寒間）開通
〃　14年　高齢者向け公営住宅完成
〃　15年　シンフォニータウン分譲開始、多目的広場造成
〃　19年　生ごみ堆肥化施設整備
〃　20年　鷹栖農工団地完成、鷹栖保育園改修、最終処分埋立地整備、定住促進住宅建設開始
〃　21年　北野保育園改修
〃　22年　子育て支援センター開設、パレットヒルズにて、「さくらフェスタ」初開催
〃　23年　鷹栖町B&G海洋センター改修
〃　24年　地域情報化推進事業（高速インターネット環境の整備）着手
〃　26年　定住自立圏構想に基づく協定締結（旭川市ほか周辺８町）、旭川地域企業誘致東京サテライトオフィス」（旭川市、東川町、東神楽町、鷹栖町の１市３町）開設
〃　27年　ゴールドコースト市（オーストラリア）との姉妹都市提携20周年記念
〃　29年　北野地区高齢者向け住宅運営開始、鷹栖地区住民センター建設工事着工、たかす円山幼稚園が認定こども園の運営開始
〃　30年　農業交流センター「あったかファーム」開設
令和元年　町政50周年記念式典、鷹栖地区住民センター「ふらっと」開設

〔行政施策の重点事項〕

『笑顔 幸せ　みんなでつくる　あったかす』をキャッチフレーズとする第８次鷹栖町総合振興計画（令和２～11年）に基づくまちづくりに取り組み、あらゆる立場の町民、子どもからシニア世代まで一人ひとりの暮らしの希望を追求し、幸せを実感できる地域社会の実現を目指しています。

なお、将来像を実現するため、５つの基本目標を定め、町民と行政とがともに思いを共有して歩みを進める「我がごと・自分ご

と」のまちづくりを進めています。５つの基本目標は以下のとおりです。
１．あらゆる世代が幸せを追求する　人が輝くまち
　あらゆる世代の町民が、それぞれのニーズに応じて学びと成長を実感でき、誰もがふるさとへの誇りと愛着を実感できる、人が輝くまちづくりを進めます。
２．あらゆる人の希望に寄り添う　幸せな暮らしを実現するまち
　妊娠期から出産、子育て、子どもから高齢者まで、ライフステージのあらゆる場面で希望を叶えて笑顔で過ごせるまちづくりを進めます。
３．あらゆる地域資源を活かす　幸せなしごとをつくるまち
　豊富な地域資源をあらためて磨き上げることで多様性のある力強い産業を構築し、すべての人が豊かな地域資源の恵みを実感できるまちを目指します。
４．あらゆる安心を未来へとつなぐ　幸せな環境を持続するまち
　本町の魅力ある環境を守り育て、今この町に暮らす町民と未来のこの町に暮らす町民がともに、安心して生活を営むことができる環境を持続させていくという視点を持って、暮らしを支える基盤づくり、暮らしを豊かにする環境づくりを進めます。
５．あらゆる人が関係して高めあう　幸せな交流があるまち
　大小さまざまに、あらゆる世代や立場の人が関わりあい、その活動が連なって大きな輪となるように、町内外につながりづくりを進めます。

〔行政管理の特色〕
職員定数の増加を抑制するとともに、人件費を最小限にとどめるため、業務の一部を民間委託に切り替え、経費の削減に努めている。
また、業務処理に庁内ＬＡＮを導入し、併せて各種手続きに来られるお客さまのために、入りやすくわかりやすい窓口サービスを平成９年４月１日より実施している。

〔主な公共施設〕
郷土資料館、各地区住民センター、農産加工施設「四季の里」、町民グラウンド、町民球場、B&G 海洋センター体育館・プール、メロディー橋（北野橋）、たかすメロディーホール、総合体育館、土壌食味分析センター、プラザ・クロス 10、サンホールはぴねす

〔産業・経済〕
鷹栖町は米作地帯として発展し、良食味米産地として高い評価を得ている。平成 28 年３月に「鷹栖町農業ビジョン」を策定し、農地流動化、担い手の育成・確保、生産基盤の再整備など地域農業の確立に向けた取組を進めている。
また、良品質生産物の付加価値向上のため農産加工を推進しており、特にトマトジュース「オオカミの桃」は全国的なヒット商品となっている。
一方、町の自然的・社会的条件を生かした企業誘致も積極的に進めており、新たな産業構造の形成と農・商・工一体となった地域複合産業の形成を目指している。

〔文化・観光〕
パレットヒルズ　　自然を生かし、町民と行政が一体となって植樹などの整備を進めている憩いの杜。展望台からは大雪山連峰を一望でき、５月には丘が満開の桜で彩られる。桜の時期に開催する「さくらフェスタ」や「夜桜ライトアップ」のほか、自然環境を生かした星空観察や写真教室、音楽イベントなどにも利用されている。
丸山パークゴルフ場　　自然を生かした多彩なコースから初心者でも安心して楽しめるコースまであり、大雪山を眺めながら、爽快なプレーを楽しむことができる。
たかす熱夏フェスタ　　多彩な出店やイベント、迫力の打上げ花火などで多くの人々が集まり、会場を賑わす。
たかすジョギングフェスティバル　　「健康をさがそう」を合い言葉に、初夏の美しい田園風景が広がるコースを、町内外のランナーが爽やかな風のように走り抜ける。

〔宿泊施設〕
古民家を改築した「ノーマライゼーションセンター」とログハウス調の「ゲストハウスあじさい」があり、研修会などに利用できる。（TEL：0166-87-3113（大雪の園））

東神楽町　ひがしかぐらちょう

役場所在地　北海道上川郡東神楽町南１条西１丁目３番２号
郵便番号　０７１－１５９２
電話番号　（０１６６）８３－２１１１代表
ＦＡＸ番号　（０１６６）８３－４１８０
市町村コード番号　０１４５３２
市町村別類型　Ⅲ－２
交通機関　函館本線旭川駅からバスで２５分
ホームページ　https://www.town.higashikagura.lg.jp/

〔地　勢〕

上川管内の中央部に位置し、東西 21.7 ㎞、南北最大幅 6.2 ㎞の細長い地形で、旭川市に隣接し、南東にかけて美瑛町、北東にかけて忠別川を境に東川町に接している。総体的に平坦地と丘陵の両地帯からなっている。忠別川及び東方の丘陵地帯から発するポン川の流域一帯は平坦で、南西方丘陵地帯とともに水田地帯となっており、地味肥沃で気候にも恵まれ上川地方屈指の良田といわれている。また空気、水ともに清らかな緑濃い郊外住宅地としても快適な土地条件を備えている。

〔歴　史〕

安政５年（1858 年）に当時幕府函館奉行雇の松浦武四郎、松田市太郎の両人が初めてこの地域を探索したというのがこの地について最も古い記録である。この地域は、明治 21 年に帝室御料地となり、翌 22 年に農区が定められ、明治 23 年 11 月には世伝御料地、そして明治 24 年の帝室林野局上川出張所が開設されその管理下に入り、明治 25 年２月神楽村が設置された。明治 27 年７月から入植が始まり、しだいに耕地が拡大され、明治 29 年には水稲の試作成功により開田が進み、その後大正８年から大正 12 年にかけて農民運動が行われ、御料地の開放により自作農化され、高台（聖台）地域の開田と南部丘陵地域は、畑として開発が行われた。

気候風土に恵まれた本地域の開発進展はめざましく、農業の振興に伴って商工業も大きく発展し、昭和 18 年４月１日に神楽村から分村し「東神楽村」が誕生した。

その後、昭和 25 年４月１日には、東聖の一部（21 ㎢）が旭川市に編入されたが、積極的な町づくりが進み、あらゆる施設の充実により、昭和 41 年１月１日町制を施行し、都市近郊型農村として大きく発展を続けている。平成５年には 100 年、平成 25 年には 120 年を迎えた。平成 28 年には町制施行 50 周年という意義ある年を迎え、さらに大きな飛躍を目指している。

〔町政のあゆみ〕

昭和 18 年　神楽村から分村し、東神楽村が誕生
〃　25 年　東聖の一部が旭川市に編入
〃　41 年　町制施行、旭川空港開港
〃　43 年　役場庁舎新築、花いっぱい運動始まる
〃　49 年　大雪消防組合東神楽支署を発足
〃　50 年　高台地区ほ場整備事業が完了
〃　51 年　美瑛、東川と大雪葬斎組合を結成
〃　52 年　工業団地造成、東神楽小学校統合校舎完成、志比内消防会館新築、ポン川八千代川改修工事完了
〃　54 年　義経公園、森林公園、忠栄小学校校舎、幼稚園園舎完成
〃　57 年　農村環境改善センター完成、稲荷消防会館新築、旭川空港ジェット機就航、公共下水道供用開始
〃　58 年　志比内小学校校舎屋体改築
〃　59 年　トレーニングセンター完成
〃　60 年　消防庁舎増築
〃　61 年　東聖小学校校舎増築、屋体改築
〃　62 年　特別養護老人ホーム開設
〃　63 年　東神楽新都市開発公社がスタートし、ひじり野団地に着手
平成元年　サイクリングターミナル、物産展示館、農畜産物処理加工施設、ふれあいの道完成、Ｂ＆Ｇ海洋センターオープン
〃　２年　東聖コミュニティ消防センター新築、ひじり野地区住居表示実施
〃　３年　役場庁舎増築、東聖保育園、中央保育園、ひじり野団地完工、デイサービスセンター建設
〃　４年　ＣＩ事業導入、市街地区住居表示実施
〃　５年　開基 100 年記念式典開催、メモリアルホール完成、学校給食開始、第６次総合計画策定
〃　７年　ふれあい交流館完成
〃　８年　東神楽中学校校舎完成
平成９年　組織機構改革実施、交流プラザつつじ館完成
〃　10 年　東神楽中学校屋外運動施設整備
〃　11 年　森林公園オートキャンプ場・パークゴルフ場、忠栄コミュニティ消防センター新築
〃　12 年　森のゆ花神楽（健康回復センター）オープン
〃　13 年　情報ネットワーク整備
〃　14 年　新大雪霊園完成
〃　15 年　東神楽 110 年、第７次総合計画スタート
〃　16 年　大雪地区広域連合設立
〃　17 年　国勢調査の人口増加率 13.1%で全道一
〃　18 年　ひじり野大橋開通、旭川空港ターミナルビル国際線施設完成、森のゆ花神楽新館完成
〃　19 年　大雪消防組合東消防署設置（東川支署と統合）
〃　20 年　地域世代交流センター「これっと」完成
〃　22 年　第１回全国女性町長サミット開催、国勢調査人口 9,292 人
〃　23 年　ひじり野ガーデン花都心分譲開始
〃　24 年　東聖花の森保育園オープン、東聖ひじり野地区地域世代交流センター「ぱれっと」完成
〃　25 年　東神楽 120 年、第８次総合計画スタート、マスコット・キャラクター「かぐらっきー」誕生、子ども発達支援センター「おひさま」完成、人口１万人達成
〃　26 年　地区別まちづくり計画策定、森のゆ花神楽の研修棟増設、Ｂ＆Ｇ海洋センターリニューアルオープン、定住自立圏構想に基づく協定締結、旭川地域企業誘致東京サテライトオフィス開設（旭川市、東川町、鷹栖町と共同）
〃　27 年　国勢調査(速報値)の人口増加率 10.1%で全道一
〃　28 年　町制施行 50 周年、東聖小規模保育園オープン、資源分別センター、一般廃棄物管理事務所完成

平成 29 年　「地域に飛び出す公務員を応援する首長連合サミット in 北海道」開催　　令和元年　スマートウェルネスシティ北海道フォーラム開催
〃　30 年　町営育苗センターに花苗の直売所とオープンガーデンを設け「花の駅」として開設

〔行政施策の重点事項〕
○第８次東神楽町総合計画策定
・将来像は「笑顔あふれる花のまち～みんなで築こう活力ある東神楽」
・基本構想、基本計画、実行計画、地区別計画の編成
・期間は 12 年、町長任期にあわせ、４年ごとに実績評価、見直し
・６つの基本目標（施策の大綱）を掲げて、各施策を実施
○東神楽町地区別まちづくり計画策定
町内を７つの公民館地区に分け、より身近な区域での課題解決に焦点を絞った取り組みを展開するための計画。地域の実情を知る地区住民と町職員が中心となり、地域の課題や現状を把握し互いに知恵を出し合いながら、地域の将来像を定めたうえで、それを達成するための取り組みについて、地域と行政の役割分担や責任を明確化していることが特徴。
・第８次東神楽町総合計画とまちづくりを進める両輪という位置づけ
・身近な地域による視点から取り組むまちづくり
・平成 26 年度を初年度とし、総合計画と同様に目標年度は令和 6 年度（直近見直し：平成 30 年度）

〔行政管理の特色〕
広域化・共同化～税、給与、年金等の計算事務を共同で処理するため、中央部７町で電算センターを設置している。
美瑛町及び東川町との３町で広域連合を設置し、介護保険・国民健康保険・福祉医療助成の事務事業を共同処理している。ゴミ処理及び葬斎場の管理も同じ３町で、消防については美瑛町、東川町、愛別町、当麻町及び比布町との５町により、一部事務組合を設置して広域的に行っている。
また、地域の実状を把握するため、まちづくり懇談会を開き、町民との協働のまちづくりを推進している。

〔財政の概況〕
景気状況などを反映して、税収の伸びも多くを望めず地方交付税も削減されるなど厳しい財政状況となっているが、効率的な財政運営を図るとともに、事務事業の見直しや経常経費の節減など行政運営の合理化や財政健全化計画を策定するなど成熟社会の進展により多様化している行政需要に応える努力を行う。

〔主な公共施設〕
総合体育館、トレーニングセンター、総合福祉会館、農村環境改善センター、義経公園，森林公園，ひじり野公園、ひじり野西公園、Ｂ＆Ｇ海洋センター、弓道場、テニスコート、ゲートボール場、各地区公民館、農業研究集会所、農村集落センター、志比内地区交流センター、大雪葬斎場、幼稚園、各小学校、中学校、国保診療所、青年会館、保育園、農畜産物処理加工施設、デイ・サービスセンター、特別養護老人ホーム、忠別川パークゴルフ場、図書館、ふれあい交流館、交流プラザつつじ館、オートキャンプ場、森林公園パークゴルフ場、健康回復センター(森のゆ花神楽)、コミュニティスペース、地域世代交流センター「これっと」、東聖ひじり野地区地域世代交流センター「ぱれっと」、子ども発達支援センター「おひさま」、子ども屋外遊戯場

〔産業・経済〕
東神楽町では、米作を中心に畑作・園芸・そ菜等の農業を基幹産業として発展してきた。
現在では、道内でも有数の米どころとして高い評価を受けているほか、グリーンアスパラやほうれん草などの野菜も数多く生産されている。米と野菜の複合経営農家や畜産など、生産品目も多岐にわたっている。新たな農業形態の構築や様々な新技術の導入を図りながら、良質で安全な食文化の将来を担えるような農業を進めている。
商工業では家具、木工、食品等を中心とした企業の育成を図りながら、工業団地や旭川空港を有する利点を活かした企業誘致を行っている。
最近では、「森のゆ花神楽」や「ひがしかぐら森林公園」を中心とする観光産業の伸展や大型商業施設等の立地と地場企業との連携を図りながら、商工業と観光産業のネットワーク化を推進している。

〔文化・観光〕
ひがしかぐら森林公園……旭川駅から車で 40 分ほどの距離にあり、アウトドアライフを気軽に楽しめる水と緑の公園。園内には、700 名収容のキャンプ場、キャビン、ミニキャビンのほか、サイクルモノレール、ボート、３オン３バスケット、テニスコート、レンタルサイクル、ゴーカート、パークゴルフ場（冬期には 36 ホールの屋内パークゴルフ場もあり）などの遊具、スポーツ施設も充実している。また、隣接した白樺林の中には、ゆったりとした広さが人気の 50 サイトを有するオートキャンプ場がある。
園内に宿泊施設「森のゆ　花神楽」があり、木の香漂う館内には大雪山連峰を一望できる露天風呂、大浴場、リラクゼーションルーム、露天風呂付き客室などが完備している。また，コテージも併設している。
ひがしかぐら花まつり……毎年８月の上旬に行われ、花の市、歌謡ステージなど地域のお祭りとして人気を呼んでいる。また、商工夏まつり町びと楽芸会も同時開催される。

〔宿泊施設〕
森のゆ　花神楽　TEL（0166）83-3800　ホテル 39 室 210 名及びコテージ４人用３棟、５人用２棟、８人用２棟
ひがしかぐら森林公園　TEL（0166）83-3727（4 月～10 月）キャビン・ミニキャビンもあり、旭川駅から車で 40 分

当麻町　とうまちょう

役場所在地　北海道上川郡当麻町３条東２丁目 11 番１号
郵便番号　０７８－１３９３
電話番号　（０１６６）８４－２１１１代表
ＦＡＸ番号　（０１６６）８４－４８８３
市町村コード番号　０１４５４１
市町村別類型　Ⅱ－０
交通機関　石北本線当麻駅から徒歩８分
ホームページ　http://town.tohma.hokkaido.jp/

〔地　勢〕

北海道のほぼ中央部の穀倉地帯である上川管内に属し、北海道の屋根といわれる大雪山連峰の麓に位置する。南西部は平坦地で旭川市に接しており、東南から北にかけては 150m～200mの山地となっている。気候は夏暑く、冬厳寒の典型的な大陸型気候で冬期降雪量は平地で１m以上、山地では数mに達する。総面積の 68%が山林原野で、平地は埴壌土、地味肥沃で農耕に適し、米の産地として知られる。

〔歴　史〕

明治 26 年５月 10 日、広島、山口両県から屯田兵 101 戸が先陣入植し、開拓のクワがおろされた。当時は永山村字トウマと呼ばれていたが、明治 33 年に分村して独立し当麻村となった。明治 35 年と大正４年には永山村、東旭川村の一部を行政、生活面から編入した。大正 11 年鉄道が開通し、当麻駅と伊香牛駅が設置され、旅客と農林産物の輸送に大きな役割を果たした。

終戦直後は、旧陸軍演習地約 6,000ha が緊急開拓地として開放され、外地引揚者など 500 戸が入植して開拓が行われた。その後、灌漑用ダムの建設、幹線水路の完成などによって造田が行われ、水田面積は飛躍的に伸び、それに伴って人口も増加した。昭和 33 年には町制を施行し当麻町として現在に至っている。

旭川市に隣接しているところから、最近は都市近郊型のそ菜、花きを取り入れた複合的農業にも力をいれている。また、昭和 32 年には鍾乳洞が発見され、レジャー施設の開発に力を注ぎ、大雪山観光地とのルートも確保。自然と産業が調和した町づくりを進めている。

〔町政のあゆみ〕

明治 26 年　屯田兵 400 戸が入植、開拓始まる
〃　33 年　永山村から分村し当麻村になる
昭和 20 年　旧陸軍演習地を緊急開拓地に開放
〃　32 年　鍾乳洞を発見（36 年に北海道指定天然記念物に指定）
〃　33 年　４月１日町制を施行、当麻町になる
〃　34 年　当麻ダム完成
〃　47 年　町民憲章制定
〃　48 年　役場庁舎・福祉会館落成、町総合開発計画策定、町営スキー場オープン
〃　49 年　総合グラウンド完成
〃　52 年　町立幼稚園開設、無線放送開局、町民プール完成
〃　53 年　スポーツガーデンオープン
〃　55 年　スポーツセンター完成
〃　58 年　第２次総合開発計画策定、町営野球場完成
〃　59 年　農村環境改善センター完成
〃　61 年　農産物地場産品加工研究センター完成
〃　63 年　公共下水道供用開始
平成元年　町民テニスコート・ゲートボール場完成、町立診療所改築
〃　２年　当麻鍾乳洞周辺整備完了
〃　３年　パピヨンシャトー（昆虫館）完成
〃　４年　開基 100 年記念式典開催
〃　５年　第３次総合開発計画策定、町立図書館完成
〃　６年　グリーンヒル運動場オープン
平成 7 年　ヘルシーシャトーオープン
〃　10 年　保健福祉センターオープン、道の駅とうま・物産館オープン
〃　11 年　当麻小学校・当麻町学校給食センター改築
〃　13 年　学童保育事業開始
〃　14 年　開拓 110 年開町念式開催、宇園別公民分館（アットホームかえで）完成
〃　15 年　第４次総合開発計画策定、当麻町農業合同事務所開設
〃　17 年　パークゴルフ場（屯田開拓公園内）オープン
〃　23 年　情報通信基盤施設「当麻町ケーブルネットワーク」運用開始、公営住宅柏ヶ丘団地まち中に移転開始
〃　24 年　開拓 120 年開町記念式開催、子育て総合センター完成、当麻幼稚園預かり保育事業開始
〃　25 年　第５次当麻町総合計画策定
〃　26 年　当麻町公民館「まとまーる」完成、大雪消防組合に加入、定住自立圏構想に基づく協定締結（旭川市ほか周辺８町）
〃　27 年　「田んぼの学校　農舎」完成、「田んぼの学校」開校、「くるみなの庭」「くるみなの散歩道」完成
〃　28 年　「くるみなの木遊館」完成
〃　30 年　役場庁舎落成

〔行政施策の重点事項〕

平成 25 年に第５次当麻町総合計画を策定し、「元気・笑顔・しあわせの明日へ～みんなが主役のまち　とうま～」の実現に向けて取り組んでいる。

１．人と自然が調和した安全・安心なまちづくり　～快適な生活環境の創出～

循環型社会形成の取組を推進し、人と自然が調和した快適な生活環境の確保を図るため、計画的な土地利用、情報通信基盤の充実など社会基盤の充実を図るとともに、愛着と誇りを持って住み続けたい、住んで良かったと思える移住・定住の取組を促進する。また、消防・救急・防災体制の充実、交通安全・防犯対策を推進し、安全で安心なまちづくりを進める。

２．資源を生かし力強く活力あふれるまちづくり　～魅力ある産業の振興～

農業の持続的発展と食糧需給の向上に貢献する生産性の向上など、担い手が将来にわたり意欲と希望を持って取り組める魅力ある施策の展開、農地の集積などを促進する。林業は、森林の公益的機能を発揮させるため、適正な森林整備により維持向上を図るとともに地材地消の取組を推進する。商工業は、個性豊かな魅力ある商店街の活性化、地場産業、企業立地の促進を図り、観光は、観光情報の発信等に努め、地域資源、自然環境、地理的条件など地域の特性を生かした活力あるまちづくりを進める。

３．ともに育む心うるおうまちづくり　～生涯学習の推進～

学校教育は、心身ともに健康でたくましく創造性豊かな児童生徒を育むために、学校、家庭、地域が一体となった　取組を推進し、調和のとれた教育環境の充実を図る。社会教育は、健康でうるおいと活力ある生活を築くため、自らが参画するスポーツ活動を推進するなど、生涯にわたって学び続けられる環境を整え、ともに育む心うるおうまちづくりを進める。

４．健やかにいきいきと笑顔で暮らせるまちづくり　～健康づくりと福祉の充実～

安心して子育てができる環境の整備や、住み慣れた地域で生涯元気にいきいきと安心して暮らすため、健康寿命の延伸をめざした健康づくりの取組の推進と、医療・保健・福祉・介護の連携による適切なサービスの提供を行う。また、支え合う地域社会の構築をめざし、子育てや高齢者、障がいのある方への支援体制の充実など、助け合いや　互いに支え合うシステムづくりなどの取り組みを推進し、健やかでいきいきと笑顔で暮らせるまちづくりを進める。

５．みんなで創る心かよう住みよいまちづくり　～地域活動の推進と行財政運営～

住民と行政それぞれが役割と責任を持ち、主体性を生かした柔軟な発想や創意あふれる取組によるまちづくりを進めるため、住民地域、団体組織などと行政が連携し、様々な活動を活力として相互に協力し合い、ともに支え合う地域コミュニティ活動の展開による協働のまちづくりを進める。

また、高度化する住民ニーズに応え、計画的で効率的な行政運営により的確な行政サービスの提供に努め、足腰の強い健全な財政運営を進める。

〔行政管理の特色〕

事務能力の向上を図るため、昭和 37 年に近隣町共同運営による電算センターを発足させ、税務、給与事務の電算処理を行っており、昭和 62 年からは、住民記録も電算化する等一層の効率化を図っている。さらにＯＡ機器の積極的導入を行い、事務の省力化、人件費の節減に努力している。

また、町民の幅広い行政需要に対応するため事務事業、組織・機構の見直しの検討を進めるなど行政サービスの充実・事務処理の円滑化・効率化を高めるとともに職員の資質の向上に努めている。

〔財政の概況〕

行財政改革の取組により、財政の健全化が図られている。しかし、歳入は地方交付税依存度が高く、地方税も大きな伸びは期待できない状況である。歳出は、公債費の償還が減少し、行革による歳出削減が図られているため、健全な財政状況である。

〔主な公共施設〕

町立診療所、公民館、農村環境改善センター、スポーツセンター、町民プール、総合グラウンド、町営スキー場、町営球場、町民テニスコート、郷土資料館、武道館、当麻山森林公園、屯田開拓公園、フィールドアスレチック、フィールドボール場、町立幼稚園、公民分館（６）、学校給食センター、中学校、小学校（２）、地場産品加工研究センター、葬斎場、町立図書館、ヘルシーシャトー、パピヨンシャトー（昆虫館）、保健福祉センター、物産館、パークゴルフ場、子育て総合センター、田んぼの学校、くるみなの庭、くるみなの散歩道、くるみなの木遊館

〔産業・経済〕

１．農　業　　米作りを基幹とした農業中心のまちであるが、近年の農業を取り巻く諸情勢の移り変わりで、若年労働者が他産業へ流出し、農業人口も徐々に減少している。このため、農地集積の推進による土地利用の効率化と水稲を中心とした野菜・花きとの複合経営を推進し、農業経営の安定化を図っている。

２．林　業　　町有林 4,000ha を所有しており、単に資本の蓄積のみならず環境保全及び公益的機能としての役割が大きく、これらを踏まえて伐採、保育、造林などを行っている。

３．商工業　　活力あるまちづくりを推進するために就労の場を確保するため、都市近郊型の立地条件を活かした工業の誘致も積極的に図っている。一方、商業はモータリゼーションの発達によって、購買力の町外流出も目立っている。

〔文化・観光〕

当麻鍾乳洞　　昭和 32 年に偶然発見された。全長 200m、高さは最高で７～８ｍで、今から 5,000 万年以前の中世期ジュラ紀に出現したものと推定されている。洞内には透明度の高い鍾乳石・石筍・石柱があり、特に学術的に世界でも珍しいといわれる管状鍾乳石（俗名マカロニ鍾乳石）がある。昭和 36 年には北海道指定天然記念物に指定され、４月 29 日から 11 月３日まで公開されている。

とうまスポーツランド　　フィールドアスレチック、パピヨンシャトー、キャンプ場、グリーンヒル運動場（多目的運動場）、フィールドボール場、ヘルシーシャトー（温浴施設）が隣接した総合レジャーランドになっており、休日には近郊からの家族連れでにぎわっている。

〔宿泊施設〕

いちいの宿　TEL（0166）84－5255
まさ屋旅館　TEL（0166）84－2029
ギャラリーペンション　TEL（0166）84－3133

比布町 ぴっぷちょう

役場所在地　北海道上川郡比布町北町１丁目２番１号
郵便番号　０７８－０３９２
電話番号　（０１６６）８５－２１１１
ＦＡＸ番号　（０１６６）８５－２３８９
市町村コード番号　０１４５５９
市町村別類型　Ｉ－０
交通機関　宗谷本線比布駅から徒歩５分または道北バス停（比布市街）より１分
ホームページ　http://www.town.pippu.hokkaido.jp/

〔町名の由来〕
アイヌ語の「ピプ」または「ピピ」“沼の多いところ”あるいは“石の多いところ”から由来したものと思われる。
ただ、置村にあたって“比布”という文字が用いられた経緯は明らかではない。

〔町章の由来〕
昭和43年に制定されたもので、比布町の「比」を図案化したもので、二つの交わりは町民の融和と団結を表わし、底辺のふくらみは豊かな町を示し、上にひろがる四本の手は比布町の限りない発展を意味するものである。

〔地　勢〕
米どころ上川盆地のほぼ中央に位置し、旭川市に隣接している。概ね平坦地で、南北17㎞、東西に９㎞のイチゴ（苺）のような型をしている。米を主産としているが、南部地方は地味肥沃で気候にも恵まれ、そ菜の栽培に適しているが、土地の44%は山林である。大雪山の眺望はすばらしく、また、石狩川が東端を流れている。気候は、内陸的気候圏内にあって寒暖の差が激しく、積雪も１ｍ以上に達する。

〔歴　史〕
明治25年に鷹栖村が誕生し、本町も鷹栖村に属していた。
その後、明治28年に香川、愛媛、滋賀の３県から600余名の団体移住者が入植したのが比布町の開基である。明治39年には２級町村制が施行され比布村として分村し、昭和37年に町制が施行された。翌38年から将来の展望にたった第１次振興計画、昭和43年から第２次振興計画を策定、実施してきたが、経済高度成長のひずみともいうべき過疎化現象により、昭和46年に過疎地域の指定を受け、過疎地域振興計画によって総合的な振興を図る一方、それらの実績の上にたち反省、評価をしつつ昭和48年から第３次振興計画により町づくりを進めている。更に昭和53年から第４次振興計画が実施されると共に農業振興条例、農村総合整備事業等により生産基盤強化を図っている。
さらに、公共下水道事業や簡易水道事業及び合併処理浄化槽設置事業により、生活基盤の整備にも努めている。昭和58年から第５次振興計画、昭和63年から第６次振興計画、そして平成11年からは第８次まちづくり計画、平成16年から第９次まちづくり計画をベースとして、よりよいまちづくりに努力を続けている。
なお、平成６年の開基百年に待望の百年記念公園（多目的運動公園）が完成し、単身者向け住宅や老人向け住宅、さらに若者との混住住宅の建設、宅地開発事業の推進など定住人口の増加にも努めている。
また、新規就農や担い手対策、市街地を中心とした空き地、空き家対策等にも積極的に取り組んでいる。

〔町政のあゆみ〕
昭和37年　町制施行、町民憲章制定
〃　40年　農業構造改善事業に着手
〃　41年　大雪浄化センター操業開始
〃　42年　４校を統合し中央小学校が開校、振興公社によりスキー場オープン
〃　47年　ほくれい国際スキー場が町営に移管
〃　48年　青少年会館完成
〃　49年　北嶺林業センター・中央児童館完成
〃　50年　母と子の家完成
〃　51年　老人保健センター完成
〃　52年　比布診療所完成
〃　53年　比布中学校全面改築完了、除雪車両総合車庫新築
〃　55年　ほくれいロッジ完成
〃　56年　東園地域センター完成
〃　58年　蘭留小学校改築・完成、東園プール完成
〃　60年　中央プール完成
〃　61年　スキー場に比布自然展望ハウス完成
平成元年　農村環境改善センター・体育館完成
〃　2年　特別養護老人ホーム「あそか苑」開設
〃　3年　保健センター完成、スポーツ研修センター完成、防災無線放送全戸に設置
平成4年　単身勤労者住宅（レインジハウス）完成
〃　5年　地域ふれあい館完成
〃　6年　百年記念公園完成、上川農業試験場開場
〃　7年　多目的室内運動場（いちごアリーナ）完成
〃　8年　ライスファクトリー完成
〃　9年　単身勤労者住宅（シャインハウス）完成、くるみ保育園新築
〃　10年　良佳プラザ「遊湯ぴっぷ」完成
〃　11年　滋賀県「湖南市」と友好都市提携
〃　12年　比布町立診療所新築移転
〃　15年　比布町図書館完成
〃　20年　中央小学校改築
〃　22年　比布浄水場完成
〃　24年　町立診療所増築棟完成・運用開始
〃　26年　大雪消防組合に加入、定住自立圏構想に基づく協定締結（旭川市ほか周辺８町（鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町、美瑛町）
〃　28年　ぴっぷスキー場センターハウス(スキップ)完成
〃　30年　中学校新築
令和2年　火葬場新築

〔行政施策の重点事項〕
産業基盤の整備　　道営ほ場整備事業の促進をはじめ、地道な土づくり運動や近代化施設の整備を図りながら、基幹産業の振興に努めると共に、地元企業の振興を図り商工業の発展に努めている。
生活基盤の整備　　町道網の完全整備、排水路や河川改修、上下水道の整備、住宅団地の開発、合併浄化槽の導入を進め、住み心地よい環境の整備に努めている。
教育施設の整備　　ニーズの観点に立った好ましい学習環境をつくり出すための学校教育施設整備を進めつつ、生涯教育における学習要求の多様化に対処した社会教育、体育施設の充実に努めている。
社会福祉の充実　　保健センターを中心とした、健康相談、講演会などの実施により、町民の健康管理に努めている。

〔文化・観光〕
ぴっぷスキー場　　比布町の観光エリアといわれる比布沢の北嶺山（標高 672m）を開発した本格的なスキー場で、全長 2,200m で最高斜度 36°北西向きで、極めて良質の粉雪の２ｍに及ぶ雪量という条件に恵まれ、広大なゲレンデは起伏と変化に富んだコースがとれ、初級者から上級者までがスキーの醍醐味を味わうことができる。このスキー場は、昭和 46 年から引き続きＳＡＪ公認の北海道地区準指導員の実技検定会会場として利用されている。第３リフト終点からの大雪山連峰と上川盆地の展望はすばらしく、多くのスキーヤーの目を楽しませている。冬期はもちろん、夏もハングライダー、山菜採りの人達に利用され、好評を得ている。更に、平成３年、ぴっぷスポーツ研修センターを建設し、各種指導者の養成、スキーなどの研修や講習にも力を入れている。
なお、平成 10 年秋にはスキー場麓に温浴・宿泊交流施設、良佳プラザ「遊湯ぴっぷ」が完成し、平成 12 年にはパークゴルフ場「グリーンパークぴっぷ」が全面オープンするなど通年の観光スポットとなっている。
苺狩り　　古くから「ぴっぷいちご」の名で知られているが、比布町青果振興会の結成以来、毎年６月下旬から７月上旬まで各農家の農園を開放し、苺狩りが行われ来場者でにぎわっている。

〔視察のみどころ〕
地方独立行政法人　　北海道立総合研究機構農業研究本部上川農業試験場
きらら 397 をはじめ数多くの水稲優良品種の育成等、上川地方の農業振興に重要な役割を果たしている北海道立上川農業試験場が平成６年比布町に移転し、道北地方の稲作を中心に畑作・園芸などの試験研究に大きな成果をあげており、多くの視察者が訪れている。

〔主な公共施設〕
平成６年に町民が身近に利用できる多目的運動広場として百年記念公園が、また、町外の人々の休憩の場として比布駅隣に地域ふれあい館が建設された。また、し尿の衛生処理を図るため愛別、当麻、比布の３町により処理施設（大雪浄化センター）を設置している。その他施設では、地域センター、福祉会館、青少年会館、比布町診療所、老人センター、ぴっぷスキー場、中央プール、保健センター、スポーツ研修センター、中央ふれあい広場、地域ふれあい館、体育館、改善センターがあり、ぴっぷ球場はナイター設備が整っている。

〔宿泊施設〕
良佳プラザ「遊湯ぴっぷ」　収容人員 70 人　TEL（0166）85－4700
ぴっぷマウントシティー　収容人員 150 人　TEL（0166）85－3969